

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 鋼製排水溝取替工		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢
作業名称	鋼製排水溝の取替	作業手順書	作成年月日	令和3年6月1日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄バト、連絡車、発電機(1.6KVクラス)バルーンライト		現場責任者	
	Oトラック		協力会社	会社名
使用工具 機器 (大ききさ等は具 体的な寸法を記 す)	チッパー、フロアー、消火器、パーナー、ウエス、鋲		協力会社責任者	自筆サイン
	電気ドリル、パール、締め付け工具、コーキングガン、ヘラ		作業順序	
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、手袋、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆		1	準備作業
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許、準中型自動車運転免許、中型自動車運転免許		2	工事車両進入
	振動工具取扱作業者(特)		3	既設鋼製排水溝撤去
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	既設鋼製排水溝撤去: 1~2名、飛散防止金具確認: 全員、飛散防止金具設置: 1~2名、 鋼製排水溝設置: 2~3名、コーキング補修: 2~3名、清掃片付作業: 1~4名		4	飛散防止金具確認
	作業手順	作業責任者(職長)	周知会実施日	令和 年 月 日
周知会	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)		5	飛散防止金具設置 (※1)
参加者			6	鋼製排水溝設置
サイン			7	コーキング補修
(記録)			8	清掃・後片付け
			9	現場離脱

可能性	リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
		○: 軽微 休業4日未満	△: 重症 休業4日以上	×: 極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能 性	○: めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○×	○○	1: 極めて小さい	関係者に対策の周知
	△: 時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	△×	○△、△○	2: かなり小さい	関係者に対策の指示
	×: かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	××	○×、△△、×△	3: 中程度	職長が確認
					△×、×△	4: かなり大きい	工事担当責任者が確認
					××	5: 極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業									
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は規制内へ入場させない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							
	KYMの実施	作業員全員で							
			健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用ブレートの確認・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検・工具の確認・積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。						
車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	回転灯・逆走時ハザードの点灯、50km/h規制、プレート・通行券の確認、幕の設置、十分な照度の確保						
確認作業	埋設物・仮設物の確認	管理用図面での事前確認	図面、現地の確認をせず損傷させる。	△	×	△×	4	公	作業員全員で確認する。(協議無しは保全許可済み)
既設鋼製排水溝撤去	変状蓋の撤去	パールの使用	変状のある蓋を素手で撤去しようとし反動で転倒する。	○	△	○△	2	安	パール等の工具を使い、力点にかかる力を分散する。
飛散防止金具確認	アンカーや、チェーンの確認	目視による確認	飛散防止の確認をせず蓋を設置し後日蓋が飛ぶ。	△	△	△△	3	公	目視にて飛散防止金具の確認を行う。
振動工具作業	※振動工具に関する手順書参照								
飛散防止金具確認設置	アンカーの設置 ドリルの使用	確認作業で性能を満たしていれば省略	削孔深さを考慮せず、余分に構造物を損傷させる。	△	△	△△	3	品	アンカーの長さを確認し、ピットにアンカーの長さ分をマーキングする。
飛散防止金具確認設置	チェーンの設置	締め付け工具の使用	十分に締め付けを行っておらず、チェーンが外れる。	○	△	○△	2	公	工具等を使用し、しっかりと締め付けを行う。
モルタル補修	モルタルの攪拌	ハンマードリルの使用	保護メガネをしておらず、モルタルが目に入る。	○	△	○△	2	安	保護メガネの着用、洗眼水を常備する。
コーキング補修	水気の確認	コーキングガンを使用	ゴミや水気のある場所を清掃、ぱっ気せず注入し割られる。	○	△	○△	2	品	ウエスや、箒・フロアー等でしっかりと不純物を排除する。
清掃・後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのないように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	○△	2	公	通過車両の通行がないのを確認後退出。 工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事